



「患者」一人一人と向き合う医師になる



2024 福井県 専門研修プログラム

- 福井大学医学部附属病院
- 福井県立病院
- 福井赤十字病院
- 福井県済生会病院
- 福井総合病院
- 国立病院機構あわら病院
- 市立敦賀病院
- 杉田玄白記念公立小浜病院

福井県内専門研修機関一覧

専門研修基幹病院

- 1 福井大学医学部附属病院 …… 3-6P
- 2 福井県立病院 …………… 7-8P
- 3 福井赤十字病院 …………… 9P
- 4 福井県済生会病院 …………… 10P
- 5 福井総合病院 …………… 11P
- 6 国立病院機構あわら病院 …… 12P
- 7 市立敦賀病院 …………… 13P
- 8 杉田玄白記念公立小浜病院 … 14P



国立病院機構あわら病院



福井総合病院



福井県立病院



福井赤十字病院



市立敦賀病院



杉田玄白記念公立小浜病院



連携施設・関連施設 (公的)

- 1 池田町診療所
- 2 越前町国民健康保険織田病院
- 3 おおい町名田庄診療所
- 4 おおい町保護医療福祉総合施設なごみ
- 5 大野市和泉診療所
- 6 公立丹南病院
- 7 国立病院機構敦賀医療センター
- 8 坂井市立三国病院
- 9 高浜町和田診療所
- 10 福井勝山総合病院
- 11 福井県子ども療育センター
- 12 福井県立すこやかシルバー病院
- 13 南越前町今庄診療所
- 14 南越前町河野診療所
- 15 美浜町東部診療所
- 16 美浜町丹生診療所
- 17 レイクヒルズ美方病院
- 18 若狭高浜病院
- 19 永平寺町在宅訪問診療所

連携施設・関連施設 (民間)

- 21 池端病院
- 22 泉ヶ丘病院
- 23 今立中央病院
- 24 大滝病院
- 25 オレンジホームケアクリニック
- 26 木村病院(あわら)
- 27 木村病院(鯖江)
- 28 斎藤病院
- 29 つくし野病院
- 30 つながるクリニック
- 31 つるが生協診療所
- 32 中村病院
- 33 春江病院
- 34 林病院
- 35 広瀬病院
- 36 福井愛育病院
- 37 福井県医療生活協同組合光陽クリニック
- 38 福井県医療生活協同組合光陽生協病院
- 39 福井厚生病院
- 40 福井循環器病院
- 41 福井総合クリニック
- 42 福井リハビリ病院
- 43 藤田記念病院
- 44 藤田神経内科病院
- 45 松原病院
- 46 宮崎整形外科

※医師の常駐しない診療所および休日急患センターは除く。 ※50音順

福井大学医学部附属病院

福井県吉田郡永平寺町

★病院からのメッセージ★

初期研修では、必須診療科に加え、将来のキャリアパスを考慮複数の診療科をローテートされたことでしょう。各診療科の実際の働き方やその診療内容は、医師となる前に想像していたものと異なっていたかもしれません。各診療科の将来性に不安を感じたかもしれません。しかし、医学の進歩や、診療報酬改定、コロナ禍など医療を取り巻く環境の変化により、その診療科が将来どのような状況になるか予測するのは困難です。ですので、自分が心底成りたいと思う診療科に進まれることをお勧めします。

初期研修ではローテート先の診療科の先生からいろいろな指導を受けたかもしれませんが、専門研修では、同じ診療科の仲間の一人となることから指導する側も早く医療チームの一員として活躍してもらえよう指導にも熱が入ります。また、大学病院として学会発表や論文作成のサポートも充実しています。福井大学医学部附属病院の専門研修を通じて、福井県や日本の医療を支える人材へと成長するだけでなく、皆さんが思い描いてきた理想の医師像となるための第一歩を踏み出してくれることを切に願っています。



病 院 の 概 要

- 開設年 / 昭和58年10月
- 開設者 / 国立大学法人 福井大学
- 院長名 / 大嶋 勇成
- 病床数 / 600床
- 標榜科 / 血液・腫瘍内科、感染症・膠原病内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、循環器内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、皮膚科、形成外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科、小児科、産科婦人科、神経科精神科、脳神経外科、麻酔科蘇生科、放射線科、救急部、総合診療部、病理診断科/病理部、リハビリテーション科

- 医師数 / 376名 (令和6年4月1日現在)
- 指導医数 / 101名 (指導医講習会修了者のみ) (令和6年4月1日現在)
- 外来延患者数 / 260,203人 (令和5年度)
- 入院延患者数 / 184,699人 (令和5年度)



領 域

基本領域専門医 (18領域)

内科、皮膚科、外科、産科婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、救急科、形成外科、病理科、臨床検査科、総合診療科

Subspecialty 専門医

消化器病、循環器、呼吸器、血液、内分泌代謝、糖尿病、腎臓、肝臓、アレルギー、感染症、老年病、神経内科、リウマチ、消化器内視鏡、がん薬物療法、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺、内分泌外科、放射線治療、放射線診断

内 科

入院から退院までの全人的医療を実践

福井県の国立大学である福井大学医学部附属病院（以下、福井大学病院）を基幹施設として、福井県医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て福井県近隣医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修を行って内科専門医を育成します。

(責任者 夢田 浩)

皮 膚 科

県内の重傷、難治性疾患が集まり、質の高い診療が可能

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標としています。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容の充実を目指します。皮膚科学の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努めます。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応えます。

(責任者 長谷川 稔)

外 科

基本外科技術の習得からそれぞれのサブスペシャリティ領域へ

- 福井大学外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。
- 1) 専攻医が医師として必要な診療能力を習得すること。
 - 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること。
 - 3) 知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医になること。
 - 4) 外科専門医の育成を通して国民及び地域住民の健康・福祉に貢献すること。
 - 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科）の専門研修を行い、それぞれ領域の専門研修へと続けていくこと。

(責任者 五井 孝憲)

産 婦 人 科

地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるよう育成します

産婦人科専門医制度は、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる産婦人科専門医を育成して、県民、国民の健康に資する事を目的としています。

特に、本プログラムは、基幹施設である福井大学附属病院において高度な医療に携わり本邦の標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、地域医療を担う連携病院での研修を経て福井県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は産婦人科専門医として福井県全域を支える人材の育成を行う理念を持っています。

(責任者 吉田 好雄)

耳 鼻 咽 喉 科

幅広い年齢層を対象に外科的かつ内科的視点で技能・知識を習得

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患は、小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的かつ内科的視点からの確かな技能と知識が必要とされています。さらに耳、鼻副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部といった広い範囲での診療を行います。本プログラムでは、医師として温かく、慈しみを持った対応で、国民が望む良質で安心な標準的医療を提供でき、生涯にわたって医学・医療の進歩に貢献できる耳鼻咽喉科専門医を育成することを目的とします。

(責任者 藤枝 重治)

脳 神 経 外 科

脳・脊髄・末梢神経のすべての領域で成人から小児まで幅広く

脳神経外科専門研修プログラムでは4年以上の定められた研修期間で、脳、脊髄、末梢神経の全ての脳神経外科疾患に対して、正確な診断力、科学的な判断力、ヒューマンイズムに溢れる患者対応力を涵養し、マイクロサージェリー、血管内治療、内視鏡など最先端の治療技術の基本を習得し、多岐にわたる脳神経外科疾患に対応できる、高度な診療技能をもつ「外科医」を養成します。

(責任者 菊田 健一郎)

<p>麻酔科</p> <p>チーム医療のコンダクタ</p>	<p>当科で学んだ麻酔科医は、いつでも、どこでも、どなたにでも、ご満足頂ける麻酔を受けて頂けることを生きがいとしています。麻酔科は患者と家族の応援団です。その後、手術室も集中治療室もペインクリニック外来も安全管理もできる、頼りになる麻酔科医に育ちます。楽しくやりがいのある仕事に就きながら、日本麻酔科学会の制定した「麻酔科医教育ガイドライン」に沿ったカリキュラムで研修しますから、日常の診療行為がそのまま専門医試験の受験勉強です。やがて、チーム医療のコンダクタとして、どこでも必要とされる、広い分野の見識を備え、深甚な倫理観を身に着けた、つらい状況の患者さんに最後まで寄り添う、なくてはならない人材に育ちます。</p> <p>(責任者 細川 康二)</p>
<p>小児科</p> <p>「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」を目指す</p>	<p>小児科医は「次世代を担う子ども達の生命・健康を守る」という重要な使命を帯びています。子ども達は自分自身で病気を治す強い力を持っています。彼らがその力を発揮することが出来るように手助けするのが私たち小児科医の仕事です。</p> <p>小児科医には「子どもの総合診療医」として、胎児期から思春期までの成長・発達に関する知識と発達段階に応じた疾患の知識が必要です。さらに、小児科医はチーム医療・問題対応能力・安全管理能力、インフォームドコンセントとアセントを得る技能を修得する必要があります。</p> <p>本プログラムでは、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備え「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とします。</p> <p>(責任者 大嶋 勇成)</p>
<p>精神科</p> <p>児童精神医学を含めた全年齢層の診断と治療技術を修得</p>	<p>精神科医療や脳科学の進歩に応じ、技能・知識を高め、優れた精神科専門医を育成します。精神科専門医のほか、精神保健指定医・一般病院連携精神医学専門医・子どものこころ専門医・クロザリル処方医、コンサータ・ピバンセ処方医、緩和ケア講習会ファシリテータ等も習得ができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域精神医療・精神科救急・自殺対策など、幅広い精神医学研修ができます。 2) 全年齢層のさまざまな精神障害の入院・外来治療を経験できます。当院子どものこころ診療部と連携し、神経発達症・摂食障害・不登校など児童期の入院治療を積極的に行います。 3) 電気けいれん療法・クロザリル治療・核医学 (PET/SPECT) ・心理療法 (トラウマ治療/認知行動療法等) ・終夜睡眠ポリソムノグラフィーなど、特殊な治療や検査を経験できます。 4) 精神科リエゾン・緩和ケア・認知症ケアなどのチーム医療を経験できます。 5) 神経発達症の臨床研究、内因性精神疾患の基礎研究なども行っています。 <p>(責任者 小坂 浩隆)</p>
<p>整形外科</p> <p>運動器疾患全般をカバーしながら各分野のスペシャリストを目指す</p>	<p>整形外科では、運動器疾患の発生予防と診断・治療に関する幅広い能力を持つ整形外科専門医を育成します。さらに、興味ある分野のスペシャリストになれるよう最大限サポートします。以下の方法で専攻医の質を担保します。①運動器疾患の予防に関する基礎的知識の習得をします。②整形外科全般にわたり正確な診断、基本的治療が出来るように幅広くトレーニングします。③整形外科の特に興味ある分野のスペシャリストを目指します。④学会発表や論文作成を通じて科学的な思考が出来るようにします。超高齢社会に突入している我が国で、整形外科医のニーズはどんどん増えています。福井県そして世界で活躍できる人材を育成します。</p> <p>(責任者 松峯 昭彦)</p>
<p>眼科</p> <p>専門性の高い治療、科学的に思考できる眼科医を</p>	<p>眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。福井大学眼科専門研修プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医 2.一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医 3.診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医 <p>(責任者 稲谷 大)</p>
<p>泌尿器科</p> <p>高度な知識・技能とともに地域医療にも対応できる専門医</p>	<p>泌尿器科専門医制度は、医の倫理に基づいた医療の実践を体得し、高度の泌尿器科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得した泌尿器科専門医の育成を図り、国民の健康増進、医療の向上に貢献することを目的とします。特に、本プログラムは、基幹施設である福井大学医学部附属病院において高度な医療に携わり本邦の標準治療や先進的な医療を経験し学ぶとともに、地域医療を担う連携病院での研修を経て福井県並びに近隣府県の医療事情を理解し、将来は泌尿器科専門医として地域医療を支える人材の育成を行う理念に基づいています。</p> <p>(責任者 寺田 直樹)</p>

<p>放射線科</p> <p>診療能力・教育・研究などの総合力養成</p>	<p>放射線科領域専門医制度は、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与する、優れた放射線科領域の専門医を育成する制度であることを基本理念としています。そして、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。</p> <p>(責任者 辻川 哲也)</p>
<p>救急科</p> <p>広く臨床現場での学習を提供</p>	<p>救急科専門医の社会的責務は、医の倫理に基づき、急病、外傷、中毒など疾病の種類に関わらず、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断・治療を進めることにあります。さらに、専門研修プログラムでは病院前の救急システムや行政および病院連携の維持・発展に関与することにより、地域全体の救急・災害医療の中核を担う、人材の育成を目的としています。</p> <p>(責任者 木村 哲也)</p>
<p>形成外科</p> <p>自然さを重視し、きめ細やかに診療</p>	<p>形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。</p> <p>形成外科専門医制度は、形成外科専門医として有すべき診断能力の水準と認定のプロセスを明示するものであり、専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力 (コアコンピテンシー) と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科専門医を育成することを目的としています。</p> <p>(責任者 中井 國博)</p>
<p>病理診断科</p> <p>稀少例や難解症例にも直接触れられる</p>	<p>福井大学医学部附属病院病理診断科/病理部を専門研修基幹施設とします。福井県内の福井赤十字病院・福井県立病院・独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター・杉田玄白記念公立小浜病院・福井県済生会病院・市立敦賀病院・独立行政法人地域医療機能推進機構福井勝山総合病院および福井総合病院に加え、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院・公益財団法人がん研究会有明病院・市立砺波総合病院および白山石川医療企業団公立松任石川中央病院を専門研修連携施設としています。3年間でこれらの施設をローテートして病理専門医の資格取得を目指します。各施設の症例数は豊富かつ多彩で、剖検数も十分確保されています。指導医は基幹施設に複数揃っています。カンファランスの場も多くあり、病理医として成長していくための環境は整っています。また、学位取得への道も拓かれています。本病理専門研修プログラムに参加し、福井県の病理専門医不足の解消に向けて一緒に頑張りましょう。</p> <p>(責任者 今村 好章)</p>
<p>臨床検査</p> <p>検査管理を通して患者・診療スタッフからの確かな信頼</p>	<p>福井大学臨床検査専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点にまとめられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床検査に関する特殊な知識、技能を医師として習得すること。 (2) 臨床検査への深い理解を通して診療に貢献すること。 (3) 臨床検査の研究法を習得し、実際に応用していくこと。 (4) 医師として適切な態度と高い倫理性を備えることにより、患者・メディカルスタッフに信頼され、プロフェッショナルとしての誇りを持つこと。 (5) 臨床検査専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること。 <p>(責任者 木村 秀樹)</p>
<p>総合診療科</p> <p>病院診療と訪問診療、同時に学べる全国初のスタイル</p>	<p>患者のニーズに応え救急に強い総合診療医・家庭医を育てます。老若男女すべての人のあらゆる健康問題に関わり、臓器に関わらず疾病の予防・治療・リハビリまで踏み込み、多職種と一緒に地域とつながりを持つ醍醐味を味わいましょう。大学病院としては画期的な在宅診療所を持ちますので、新しい試みに一緒に挑戦してくれる若い力を募集します。総合診療専門医の質向上を図り、国民の健康・福祉に貢献することを第一の目的としています。</p> <p>(責任者 林 寛之)</p>

福井県立病院

福井市

★病院からのメッセージ★

開設以来、常に地域基幹病院としての役割を担い、昭和43年に未熟児センター、昭和58年3月に第三次救命救急センターを開設する等の拡充を行っています。平成12年4月には県立精神病院を組織統合し、平成16年5月に新病院本棟、平成19年3月にはこころの医療センター新病棟が完成しました。

本県におけるがんの高度な診断治療・臨床研究の拠点として、平成21年2月にがん医療センター、平成23年3月には日本海側で初となる陽子線がん治療センターを開設しています。

さらに、平成30年4月から手術とカテーテル治療を同時に行えるハイブリット手術室を運用しています。

また、平成30年度には、県内で唯一のDPC特定病院群に認定されました。

診療業務は、第一線医療から高度医療、救急医療、予防活動および検診業務と幅広く、患者層も感冒、ヘルニアから悪性腫瘍、難治性疾患、生活習慣病等の患者、さらにはICU・CCUなどの重症患者と極めて多様性に富んでいます。



病 院 の 概 要

- 開 設 年 / 昭和25年
- 開 設 者 / 福井県知事 杉本 達治
- 院 長 名 / 道傳 研司
- 病 床 数 / 747床
- 標 榜 科 / 一般内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓・膠原病内科、内分泌・代謝科、血液・腫瘍内科、循環器内科、脳神経内科、感染症内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産科・婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、核医学科、リハビリテーション科、精神科、心身医療科、作業医療科、デイ・ケア科

- 医 師 数 / 194名 (令和6年4月1日現在)
- 指 導 医 数 / 70名 (令和6年4月1日現在)
- 外 来 患 者 数 / 1,089人/日 (令和5年度)
- 入 院 患 者 数 / 530人/日 (令和5年度)



プ ロ グ ラ ム

内 科

入院から退院まで 経時的な治療を

当院内科7科をローテート可能ですが、サブスペシャリティの1科を中心に研修することが多いです。希望に応じて適宜変更可能です。

3年目については連携施設および特別連携施設で1施設1年間または6か月ずつ研修します。当院は福井県嶺北医療圏の中心的な急性期病院です。嶺南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設で内科専門研修を行うことで、必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できるとともに、主担当医として入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的な診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。

(責任者 荒木 英雄)

外 科

多種多様な外科手術 を経験

福井県内で幅広い研修ができるよう、県内の連携施設を充実させています。県内で症例数が多い県立病院・済生会病院はもとより、希望によって嶺南地域の病院でも研修することが可能です。

各連携施設にはそれぞれ特徴があり、同じ疾患を診療した場合でも、多種多様な考え方や手術・処置を経験できるだけでなく、患者さんの全診療過程（診断、手術、化学療法などの術後治療等、緩和医療）を経験することができます。

また、外科専攻医が経験すべき手術・処置等の中で求められている「外傷の修練」は、大多数の病院で経験しにくい状況ですが、当院は県内で最多の緊急手術件数を誇っており、「外傷の修練」を経験しやすい環境にあります。

実績として2020年のプログラム開始から現在まで計13名（男子8名、女子5名）がプログラムに参加し7名が修了しております。これまで地域枠が4名、自治医枠が2名研修しており、それぞれの背景や都合に合わせた研修が可能と考えています。

外科の将来を担う先生方をお待ちしています。

(責任者 宮永 太門)

産 婦 人 科

地域の実情に合わせた 実践的医療

産婦人科専門医制度は、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる産婦人科専門医を育成することを目標としています。このため、本プログラムでは、基幹施設である当院において高度な医療に携わり、本邦の標準治療や先進的な医療を学び、また地域医療を担う連携病院での研修を経て、地域の実情に合わせた実践的医療を経験します。そして基本的臨床能力獲得後は産婦人科専門医としてすべての年代の女性を支える医師を目指します。

(責任者 田中 政彰)

麻 酔 科

バラエティーに富んだ 麻酔が経験可能

当院は基幹病院の一つとして福井県の救急医療を支えています。一般的な手術から腸回転異常症や横隔膜ヘルニアなどの生後0日の小児の手術、開心術や大動脈瘤、解離などの大血管の手術、肺、肝臓、食道、熱傷などの手術があり、パラエティーに富んだ麻酔が経験できます。救急部やICUの施設、人員も充実しており、各部署が麻酔科と密に連絡を取り合いながら協力して患者さんの治療にあたっています。各科の垣根も低く、合同での手術も多くみられ、他科の医師と気軽に話し合える麻酔科にとってとても動きやすい環境です。

(責任者 我喜屋 徹)

小 児 科

よく学び、よく遊び、 切磋琢磨する

当プログラムは、1. 総合周産期母子医療センター、2. 1次から3次までの救命救急センター、3. 小児科一般診療という3つの大きな柱があります。

実務はかなり忙しい病院小児科です。また研修期間のうち1年～1年半は福井県嶺南地域での地域総合診療を研修の一環として組み込んでいます。当院で経験することが少ない疾患に関しては、福井大学との連携を行っています。大都会の総合病院ではありませんが、common diseaseから専門性の高い疾患まで、バランスよく経験することができます。

小児科専門医をめざす各専攻医が「よく学び、よく遊び、切磋琢磨する」ことで、自身の生き方や将来像も自分で決定する力を持ち、その姿を自ら診療にあたることもたちにみせ、そのこともたちにとってのロールモデルとなる、そんな魅力ある小児科専門医が誕生することを期待しています。

(責任者 畑 郁江)

精 神 科

再編後の新体制で 心をつなぐコミュニ ティ医療の連携 拠点として

現代のストレス・高齢化社会において、精神疾患は多様化し、癌などと並ぶ5大疾病に指定されています。「入院から地域社会への展開」が掲げられ、精神病床の機能分化、早期地域移行などが求められています。また近年、救命救急センター患者の10%程度は精神科関連といわれ、身体と精神の傷病を併せ持つ緊急・重症な身体合併症患者も多く、稀少な有床総合病院精神科の果たす役割の重大さがクローズアップされています。

これら精神医療変革の潮流を見据えて、2024年4月より、当科こころの医療センターを再編して、①全国初の高機能重点化4病棟体制（救急・合併症2、救急1、重度難治性1）ヘシフト、②救命救急センター併設の有床総合病院精神科の特性を活かした精神政策医療（精神科救急、身体合併症、依存症、児童思春期、自殺未遂者ケアなど）への重点化、③訪問支援やデイケアなど地域包括ケアシステムの強化を推進しています。

本プログラムでは、「有床総合病院精神科の特性を活かした急性期中心の地域包括的精神科チーム医療」を効率的に修得でき、精神医療変革の新たな時代にプロフェッショナルとして信頼される精神科専門医の養成を目指しています。

(責任者 村田 哲人)

救 急 科

豊富な症例を経験 できる

ER診療を中心とした豊富な臨床経験が学べます。5シフト制を取っており、OnOffがはっきりしています。また、救急エコーコースを含めた各種Off the Jobコースへの積極的な参加とともに指導法を学んでいただきます。

初期初療だけでなくICU管理、救命病棟入院管理ができ、希望により愛媛大学医学部附属病院、神戸市立医療センター中央市民病院、沖縄県の社会医療法人敬愛会中頭病院でも可能です。

福井大学との連携により林寛之先生によるOn the Job指導だけでなく、プロフェッショナルリズムの講義指導も受けることが可能です。

(責任者 前田 重信)

放 射 線 科

一次救急から陽子 線治療まで、幅広い 研修が可能

当プログラムでは、画像診断全般、IVR、放射線治療の全ての領域にわたる研修が可能です。救命救急センター、周産期センターそして急性期合併精神科病棟を持つことから、広範囲の急性期治療を中心とした疾患や特殊治療の経験が可能です。特に北米型ERを開設当初から実践している救命救急センターの画像診断については、24時間体制で対応しており、画像診断を基盤とした即時の治療法の決定などの救急現場での放射線診断を経験できます。また陽子線がん治療センターも併設され研修初期から最先端の放射線治療の経験も可能です。他科との連携、組織横断的なカンファランス、勉強会が盛んに行われており、医師としての診療能力に加え、倫理性や社会性を培うとともに、学術・研究活動を通してリサーチマインドを滋養し、教育・研究などを含む統合力の育成を目指します。

(責任者 山本 亨)

福井赤十字病院

福井市

★病院からのメッセージ★

福井赤十字病院は、赤十字の理念に基づき、福井・坂井医療圏の中核病院であり、日常診療で遭遇する病気から、高度な治療を要する重症・難治性疾患まで様々な症例を経験できます。救急受入患者数は年間15,600件を超え、当直業務でも多くの救急疾患を経験可能です。

また、内科系と外科系が協働するセンター化構想を推進しており、脳神経センター、呼吸器センター、消化器センター、地域周産期母子医療センター、腎センター、がん診療センターなどを設置。そのため、症例を内科系・外科系両方の視点からアプローチする経験ができます。

このような医療環境の中で、多くの症例を学び、社会人、そして医療チームの一員として総合的・全人的な診療力を高めていけるよう、指導・サポートします。共に切磋琢磨していきましょう！



福井県済生会病院

福井市

★病院からのメッセージ★

福井県済生会病院は「患者さんの立場で考える」を病院理念として、充実した医療設備に加え、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価認定やISO9001認定を取得し、常に化する医療環境に対応した質の高い医療の提供に努めています。

このようなあらゆる医療環境が整った中で、当院の研修プログラムはプライマリ・ケアの基本的診療能力を学ぶのみならず、臨床医に求められる高い倫理性と思いやりの心を養い、Cureに留まらずCareを含めた全人的視点を備えた“心温かい医師”を育てることを理念としています。



病 院 の 概 要

- 開設年 / 大正14年4月1日
- 開設者 / 日本赤十字社
- 院長名 / 小松和人
- 病床数 / 529床
- 標榜科 / 内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、腎臓・泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科

- 医師数 / 151名 (令和6年4月1日現在)
- 指導医数 / 内科23名、総合診療科2名 (令和6年4月1日現在)
- 外来患者数 / 1,229人/日 (令和5年度)
- 入院患者数 / 362人/日 (令和5年度)



プ ロ グ ラ ム

内 科

地域の実情に合わせた実践的な医療を行える人材を育成

当院は、急性期の患者さんの診療を重点的に行っています。理念は、「人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。」です。患者さんはcommon diseaseの方が多いです。内科疾患の一般的な急性期治療から最先端の治療を学ぶことができます。高齢が多いので、連携医の先生から紹介を受け、急性期の治療をし、またもとの生活に戻る、この包括ケアシステムを通じて、患者さんの人生を考えた医療を学ぶことができます。脳神経センターや、消化器センター、呼吸器センター、腎センターなど、センター化を行っており、内科疾患のみならず、外科的治療が適応となる患者さんの診療も学ぶことができます。研修期間は基幹施設(当院)2年+連携施設1年間となります。連携施設は、県内の病院のみならず、京都大学医学部附属病院、北野病院(大阪)などがあり、都市部の大病院での研修も可能です。専攻医の先生方の、いろいろな可能性が広がっていくと思います。これが福井赤十字病院の内科専門研修の特徴です。

(責任者 高野 誠一郎)

総合診療科

地域ケアの学びを重点的に

本プログラムは、病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけることが目的です。総合診療専門研修Ⅰ(外来診療・在宅医療中心)、総合診療専門研修Ⅱ(病棟診療、救急診療中心)、内科、小児科、救急科の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。

(責任者 道上 学)

病 院 の 概 要

- 開設年 / 昭和16年
- 開設者 / 社会福祉法人恩賜財団 済生会
- 院長名 / 笠原 善郎
- 病床数 / 460床
- 標榜科 / 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、腫瘍内科、緩和ケア科、口腔外科

- 医師数 / 136名 (令和6年4月1日現在)
- 指導医数 / 内科指導医18名 (令和6年4月1日現在)
- 外来患者数 / 1,057人/日 (令和5年度)
- 入院患者数 / 308人/日 (令和5年度)



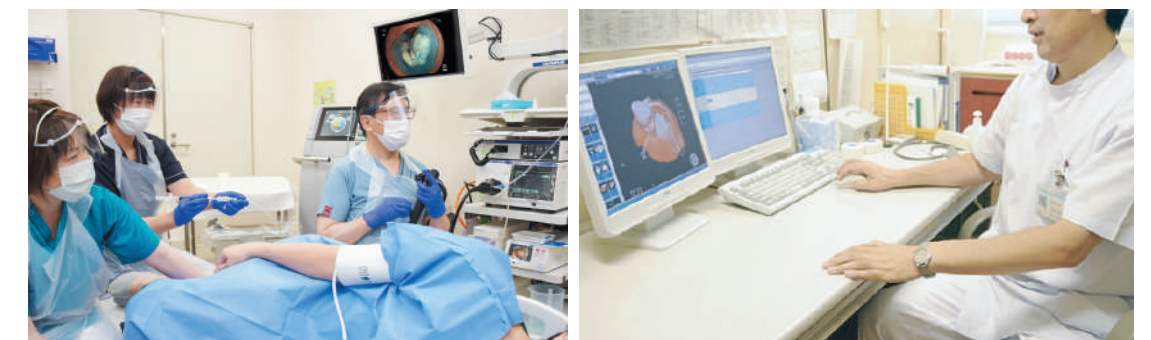
プ ロ グ ラ ム

内 科

社会的背景・療養環境調整をも包括する専門医を育成

福井県の中心的な急性期病院である福井県済生会病院を基幹施設として、福井県嶺北医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て福井県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として福井県全域を支える内科専門医の育成を行います。

(責任者 金原 秀雄)



福井総合病院

福井市

★病院からのメッセージ★

福井総合病院は、福井市の北西部に位置する中核病院であり、主に福井市及び坂井市を主な診療圏としていますが、丹南地区、嶺南、さらに県外から通院される方もいます。

当院の特色は、『高度先進医療』の提供と『充分な期間の入院治療』という両方を満たしているという事です。それができるのは、老健施設や特養施設、デイサービス、デイケア、訪問看護、訪問リハ、各種ドック等の、入院から在宅までの一貫した医療体制が整っているためと考えています。また、リハビリテーションの充実も大きな特色で、総スタッフ数は100名以上にもほり、きめの細かいリハビリが行われています。

当院専門研修プログラムでは、整形外科、リハビリテーション科の広範な診療領域について、基幹施設・連携施設・関連病院の各々の特性を最大限に生かした機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

患者さんに信頼され、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者さんへの責任を果たせる医師を目指し、共に努力し、共に高めあえる方のご応募をお待ちしております。



病 院 の 概 要

- 開設年 / 昭和40年8月
- 開設者 / 一般財団法人新田塚医療福祉センター
- 院長名 / 水野 勝則
- 病床数 / 315床
- 標榜科 / 整形外科、内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、アレルギー科、内分泌内科、糖尿病内科、リハビリテーション科、外科、呼吸器外科、消化器外科、肛門外科、脳神経外科、リウマチ科、感染症内科、耳鼻咽喉科、眼科、小児科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、形成外科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科

- 医師数 / 58名 (令和6年4月1日現在)
- 指導医数 / 内科8名、整形外科7名、リハビリテーション科3名 (令和6年4月1日現在)
- 外来患者数 / 74名/日(令和5年度) ※1
福井総合クリニック: 656名/日(令和5年度)
- 入院患者数 / 288名/日(令和5年度)

※1 福井総合病院は入院、救急外来、特定の紹介外来のみ担当。一般外来は、同一法人内の福井総合クリニックが担当しています。



プ ロ グ ラ ム

内科

ジェネラルマインドを持ったスペシャリストになる

当院の内科の特徴は、診療科の垣根が非常に低いことです。それぞれの医師は各臓器の専門家でありながら、担当する症例はその日に偶然診療した患者をそのまま診療することが多く、自然とジェネラルな能力が身に着きます。もちろん、自分の専門ではない診療科では適切にマネージメントが困難な場合がありますが、医局は1つで、様々な診療科のDrが、バラバラに座っているため、風通しがよく、コンサルトの敷居が非常に低いことが特徴です。また、内科指導医との距離も近いため、上級医から知識を吸収しつつ、自身の専門性や診療能力を高めることが可能です。

まだまだ発展途上の内科プログラムではありますが、専攻医の希望を踏まえつつ、内容をブラッシュアップする予定ですので、ぜひとも当院の内科プログラムに応募下さい。(責任者 白崎 温久)

整形外科

未来の整形外科を担う卓越したプロフェッショナルへ

福井総合病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「医学医療は最先端を、教育に関しては未来の整形外科を担う卓越したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。現在、当院整形外科には、腫瘍・骨代謝、脊椎、四肢関節、スポーツ医学、上肢・手外科、足の外科、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設にもそれぞれに特色をもった約40におよぶ大学、施設、病院があり、各々の特性を最大限に生かし、洗練された研修内容を提供します。当院整形外科は、開設から50年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されており、専攻医の皆様にも素晴らしい研修環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。(責任者 水野 勝則)

リハビリテーション科

県下最大のリハビリテーション部門を有する研修環境

福井県専門研修プログラムでは、新田塚医療福祉センター福井総合病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。中心となる新田塚医療福祉センターは県下最大のリハビリテーション部門を有するセンターです。また、県よりリハビリテーション支援センター、高次脳機能障害支援センター、スポーツ医学センターの委託を受け、臨床・教育・研究の3つの柱にバランスよく取り組むことができます。(責任者 佐藤 万美子)

国立病院機構あわら病院

あわら市

★病院からのメッセージ★

当院は内科全般、小児科、外科を対象とした診療体制をとり、特に障害者、長寿、血液・免疫においては専門性を発揮した医療を展開しています。

障害者病床172床(うち重症心身障害児(者)病床90床、地域包括ケア病床14床)を有し、高齢者を総合的に診療して、慢性疾患に合併する肺炎や心不全、血管障害といった急性の病態を治療する体制を整えています。

そのうえで、訪問診療などの在宅支援事業の運営、地域ネットワークを活用した地域完結型医療に力を入れています。



病 院 の 概 要

- 開設年 / 平成16年
- 開設者 / 独立行政法人国立病院機構
- 院長名 / 見附 保彦
- 病床数 / 172床
- 標榜科 / 内科、血液・腫瘍内科、神経内科、呼吸器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、リハビリテーション科

- 医師数 / 9名 (常勤のみ) (令和6年4月1日現在)
- 指導医数 / 7名 (指導医講習会修了者のみ) (令和6年4月1日現在)
- 外来患者数 / 29.8人/日 (令和5年度)
- 入院患者数 / 155.3人/日 (令和5年度)



プ ロ グ ラ ム

総合診療科

外来、入院、在宅の各フィールドで実践

当プログラムは、地域医療に積極的に参画できるgeneralistとして将来学び続ける医師の養成を目的に、国立病院機構のあわら病院と京都医療センターが連携しているプログラムです。

あわら病院は障害者病床を含めて172床からなる地域医療機関であり、在宅療養支援病院として地域かかりつけ医の役割も有しています。京都医療センターは京都市の地域基幹病院で周辺地域を含め幅広い都市群部医療圏を持っています。

両医療機関での研修を通じて軽症例から重症例まで、高齢者から年少者等、様々な疾患の地域でのマネージメントを外来・入院・在宅の各フィールドで実践することができるのが当プログラムの特徴です。

(責任者 桐場 千代)

市立敦賀病院

敦賀市

★病院からのメッセージ★

市立敦賀病院は二州地区における中核病院で、年間2,300台の救急車を受け入れ、7,600人以上の時間外診療を行っています。平成16年度から初期臨床研修制度にのっとり、毎年6名前後の初期臨床研修医を受け入れています。

当院内科は現在、循環器、消化器、呼吸器、腎臓透析、糖尿病の各グループに分かれ、毎週全体で症例検討会、入退院カンファレンス、抄読会を行い、各グループでさらに症例検討会、外科、放射線科を交えたカンサーボードなどを行っています。剖検も毎年10例前後を数え、適宜CPCも開催されており、充実した研修が可能です。

学会出席に係る参加費や交通費は一定額までは病院が支援します。

専門研修終了後は、当院職員として就職する道や他の市中病院に就職する道もあり、関連医局に紹介することも可能です。

医師としての成長期を当院で研修してみようと希望される医師を募集します。



病 院 の 概 要

- 開設年 / 明治15年
- 開設者 / 敦賀市長 米澤 光治
- 院長名 / 新井 良和
- 病床数 / 332床（一般330床、感染2床）
- 標榜科 / 内科、神経内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、心臓血管外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、神経科精神科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科

- 医師数 / 63名（令和6年4月1日現在）
- 指導医数 / 12名（令和6年4月1日現在）
- 外来患者数 / 557人/日（令和5年度）
- 入院患者数 / 207人/日（令和5年度）



プ ロ グ ラ ム

内 科	<p>内科の専門研修は3年としています。1年目は3ヶ月ごとのローテーション（循環器、呼吸器、消化器、腎臓）をしていただき、2年目は専攻医と相談しながら研修スタイルを考えていきます。3年目は連携施設での研修になります。個々の研修目標に応じたプログラムが可能です。</p> <p style="text-align: right;">（責任者 三田村 康仁）</p>
総合診療科	<p>内科の後期研修は3年としています。48の連携施設と協力し、患者さんを全体的に診られる専門医の全人的育成を目指しています。地域の基幹病院で活躍する高い診断・治療能力をもつ総合診療専門医（病院統合医）を養成するために、ER型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院の中で、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的としています。</p> <p style="text-align: right;">（責任者 清水 和朗）</p>

杉田玄白記念公立小浜病院

小浜市

★病院からのメッセージ★

福井県の南西部に位置する若狭地方は、リアス式海岸のため、古くは天然の良港として栄えたところですが、その立地ゆえに近年は過疎化・少子高齢化が進むところです。そのため基幹病院と診療所のネットワークは自然と堅固なものとなり、地域医療を支える土台となっています。

さまざまな疾患が集中しますが、風通しの良い医師間の協力のもと、地域内で医療を完結する方針を貫いています。

専門医習得を目標として、救急の対応はもちろん、医師としての心得・技術を学ぶ場を提供いたします。人情あふれる環境で、ともに学び働きましょう。



病 院 の 概 要

- 開設年 / 明治16年
- 開設者 / 公立小浜病院組合
- 院長名 / 谷澤 昭彦
- 病床数 / 456床
- 標榜科 / 内科、循環器内科、救急総合診療科、精神科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

- 医師数 / 65名（常勤のみ）
（令和6年4月1日現在）
- 指導医数 / 整形1名、総合診療2名
（令和6年4月1日現在）
- 外来患者数 / 734人/日（令和5年度）
- 入院患者数 / 349人/日（令和5年度）



プ ロ グ ラ ム

整形外科	<p>到達目標を「自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっていきます。現在、福井大学整形外科と連携して指導・教育活動を行っています。福井大学整形外科には、骨・軟部腫瘍、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、上肢・手外科、関節リウマチ、外傷、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。その他の連携施設には、救急医療、外傷、スポーツ医学、脊椎外科、関節外科、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった施設、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。</p> <p style="text-align: right;">（責任者 竹野 建一）</p>
総合診療科	<p>病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ER型救急や急性期を有する地域拠点病院で、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的として創設されました。そこに居住する地域住民、各種団体や当院職員などの理解と協力のもとで研修できる環境を整えています。協力施設には、市立敦賀病院、名田庄診療所、なごみ診療所、高浜病院と嶺南地域のネットワークを生かした地域に根差したプログラム構成になっています。</p> <p style="text-align: right;">（責任者 廣瀬 敏士）</p>

病院見学情報一覧

ここでは福井県の基幹病院の見学情報を掲載しています!!
 気になった病院がありましたら、ぜひ見学にお越しください!! (メールアドレス、電話番号は隣のページをご覧ください)

頁	病院名	見学対応が可能な曜日	旅費の補助	受け入れ最長日数	申込方法	申込期限	指導医からのメッセージ	連絡先
3	福井大学医学部 附属病院	随時対応 平日のみ	なし	ご希望の日数	メール 電話	特になし	外来・病棟・OPE等の見学、救急夜勤時の見学も可能です。 また、研修医と一緒にカンファレンスも参加できます。	福井大学医学部附属病院 臨床教育研修センター 〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3 TEL:0776-61-8600 FAX:0776-61-8224 E-mail:sotsugo@med.u-fukui.ac.jp URL:http://sotsugo.hosp.u-fukui.ac.jp/specialist
7	福井県立病院	救命救急センター 随時対応 その他の科 平日の日勤帯	なし	制限なし ご相談ください。	メール	2週間前 随時対応します。 ご相談ください。	当院では、多様な患者層に対応し全人的立場からの医療 を提供できる医師を目指して、日々成長を実感することがで きます。一度見学に来て雰囲気を感じてみてください。お待ち しています。	福井県立病院 経営管理課 〒910-8526 福井県福井市四ツ井2丁目8-1 TEL:0776-54-5151 (内線2053) FAX:0776-57-2945 E-mail:hp-kensyu@pref.fukui.lg.jp URL:http://fph.pref.fukui.lg.jp/recruit-trainee/visit.html
9	福井赤十字病院	平日(半日も可)	なし	制限なし ご相談ください。	メール ホームページ	2週間前 随時対応します。 ご相談ください。	病院を知る為にまずは見学にお越しください。見学内容 の希望をどんどん伝えてもらえれば、出来るだけ治えるよう にします。充実した1日にしましょう。	福井赤十字病院 教育研修推進課 〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号 TEL:0776-36-3630 FAX:0776-36-4133 E-mail:kensyu@fukui-med.jrc.or.jp URL:https://www.fukui-med.jrc.or.jp/recruit/
10	福井県済生会病院	平日の日勤帯(半日も可)	随時対応	制限なし	メール	2~3週間前	“百聞は一見にしかず” まず見学に来て自分の目で見て雰 囲気を感じてください。Web、パンフレットより何より見学が 一番よく分かります。お待ちしております。	福井県済生会病院 人事室 〒918-8503 福井県福井市和田中町舟橋7番地1 TEL:0776-23-1111(代) FAX:0776-28-8527 E-mail:kensyu@fukui.saiseikai.or.jp URL:http://www.fukui-saiseikai.com/
11	福井総合病院	平日(応相談)	応相談	応相談	メール 電話	随時対応	中規模病院で多くの経験を積みたい方に最適な環境で す。情熱を持った指導医が皆さんをお待ちしています。整形 外科、リハビリテーション科専攻医を希望される方は是非一 度見学にお越し下さい。	福井総合病院 総務課 〒910-8561 福井県福井市江上町58-16-1 TEL:0776-59-2508 FAX:0776-59-2538 E-mail:rinken@f-gh.jp URL:https://www.f-gh.jp/recruit/hospitaltours/
12	国立病院機構 あわら病院	基本平日 休日相談可	距離により 2回目以降あり	2日相談可	メール	1週間前	田舎の小規模病院ではありますが、情熱に満ちた指導医が 皆さんをお待ちしています。是非とも見学に来ていただき、 Web、パンフレットだけでなくご自身で当院の雰囲気を感じて ください。無料宿泊施設を利用いただき2日間の見学も可能 ですので、遠方の方も興味のある方は是非見学に来て下さい。	独立行政法人国立病院機構あわら病院 管理課 〒910-4272 福井県あわら市北潟238号1番地 TEL:0776-79-1211 FAX:0776-79-1249 E-mail:401-Syomu@mail.hosp.go.jp URL:https://awara.hosp.go.jp/
13	市立敦賀病院	随時対応	なし	制限なし	メール 電話	特になし	研修医、指導医、コメディカルや事務スタッフで良い研修 ができるよう、色々なアイデアを出しながら研修環境を整 えています。“また来たい”とってもらえるような病院を目 指していますので、興味のある方は是非見学に来て下さい。	市立敦賀病院 総務企画課 〒914-8502 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号 TEL:0770-22-3611 FAX:0770-22-6702 E-mail:b-soumu@ton21.ne.jp URL:https://tsuruga-hp.jp/pages/133/
14	杉田玄白記念公立 小浜病院	基本平日 休日相談可	なし	2日相談可	メール ホームページ	1週間前	指導医又は専攻医について見学してもらいます。無料の宿 泊施設を利用できますので、日帰りではなく2日間の見学が お勧めです。	杉田玄白記念公立小浜病院 〒917-8567 福井県小浜市大手町2-2 TEL:0770-52-0990 FAX:0770-53-3745 E-mail:kensyu@obamahp-wakasa.com URL:http://www.obamahp-wakasa.jp/hospital/gakusei/kensyui02.html



DOCTORS × FUKUI

専攻医に聞く「なぜ福井？」 (福井県内の専門研修基幹病院の専攻医に聞きました)

Q1. 専門研修先として福井県の病院を選んだのはなぜでしょうか？

- 砂川** 初期研修でお世話になった際に、真剣に患者さんに向き合う先生方の姿勢をみて、自身もこの環境で医師としての人格を磨きたいと感じました。
- 藤井** 初期研修を行った病院で、自分の志望科の専攻医の先生方がとても生き生きと活躍されている姿を見て、自分もここで専攻医として働きたいと思いました。
- 友田** 2年間の初期研修で各科ローテートする中で目標となるような先輩医師とたくさん出会い、自分も福井で研修することを決めました。

Q2. 研修病院の勤務環境はどうか？

- 砂川** アットホームな雰囲気、教育熱心な方々に囲まれています。それぞれのプライベートな時間も確保できるよう、お互いに配慮しながら楽しく仕事できています。
- 藤井** 初期研修で2年間過ごしたというのもあるかもしれませんが、とても居心地が良く、上級医に限らずみなさん優しく気にかけてくださるので働きやすいです。
- 友田** とても働きやすいと感じています。教育体制も整っており、楽しく充実した日々を過ごしています。

Q3. 専門研修プログラムを受けてみてどうですか？

- 砂川** 様々なプロブレムを背負った患者と出会い、日々成長を感じています。重症感染症など一般内科患者も診る機会があるので、総合的な内科診療能力を実践的に身につけています。
- 藤井** 手技の件数も十分あり、手厚いフィードバックもいただけるので日々成長できている実感があります。
- 友田** 福井県の大学病院の特徴としてcommon diseaseから複雑な症例までたくさん経験します。日々新しい学びがありとても充実しています。

Q4. 福井県での暮らしはどうか？

- 砂川** のんびりした雰囲気です。気ままに生活できています。
- 藤井** 自然豊かで食べ物も美味しく、人も温かくて気持ちよく過ごせています。
- 友田** 自然が豊かで食事がおいしいです。人混みがないのでリラックスして休日を過ごしています。

Doctors Profile

すなかわ
砂川 みや
大学: 愛媛大学
初期研修: 福井県立病院
現在の所属: 内科(血液・腫瘍内科)



ふじい しょうご
藤井 省吾
大学: 福井大学
初期研修: 福井赤十字病院
現在の所属: 福井赤十字病院 消化器内科



ともだ えつと
友田 越人
大学: 福井大学
初期研修: 福井大学医学部附属病院
現在の所属: 福井大学医学部附属病院 総合診療部



女性の就業率全国トップクラスだからこそ

福井県

仕事もプライベートも充実させたい!

働く女性を応援します!



女性就業率
55.6%
全国 2 位

令和2年国勢調査

未婚率
(35~39歳女性)
20.8%
全国で2番目に低い

令和2年国勢調査



出生児の
平均体重
3,050g
全国 1 位

令和3年人口動態統計



合計特殊出生率
1.57
全国上位

令和3年人口動態統計

共働き率
61.2%
全国 1 位

令和2年国勢調査

子ども3人以上
の世帯割合
8.1%
全国5位

令和2年国勢調査

子どもの学力
(小学生男女・中学生男子)
全国 1 位
(中学生女子)
全国 2 位

令和4年
全国体力、運動能力、運動習慣等調査



子どもの学力
全国 2 位

令和4年全国学力、学習状況調査



待機児童
0人

子ども家庭庁「保育所等関連状況
取りまとめ(令和5年4月1日)」

子育ての
しやすさ自慢
全国 1 位

ソニー生命保険株式会社
[47都道府県別生活意識調査2022]

持ち家延べ面積
(1戸あたり)
164.7㎡
全国 2 位

平成30年住宅・土地統計調査

ふくい女性医師支援センター

結婚、出産・育児と仕事の両立は難しい…。そんなことはありません。
ふくい女性医師支援センターは、女性医師が結婚、出産後も診療現場でいきいきと働き続けられるようサポートしています。

●相談窓口 月曜日～金曜日 9時～17時 相談専用電話 (0776) 24-5055
ご相談は電話やメールの他、コーディネーターとの面談も可能です(要予約)

- 業務内容
- 1 女性医師のネットワークづくり
(子育てドクターの会)
 - 2 医師および学生のネットワークづくり
(医学生、研修医等をサポートする会)
 - 3 女性医師の働きやすい環境整備の検討
 - 4 子育て支援等の情報提供など…etc

相談内容の例

- ・産休、育休後に職場復帰するが不安。
- ・復職のための研修を受けてみたい。
- ・居住地に近い職場を紹介して欲しい。
- ・院内保育の完備した医療機関を知りたい。……………など



ふくい女性医師支援センター

所在地: 〒910-0001

福井市大願寺3丁目4-10 (福井県医師会館)

電話: 0776-24-5055 (相談専用) 0776-24-0387 (県医師会館)

URL: <http://www.fukui.med.or.jp/fukuijoseiishi/>

e-mail: fwdr-sc@fukui.med.or.jp

子育てドクターの会

子育てドクターの会は、ふくい女性医師支援センターにて開催しています。子育てや仕事との両立に役立つ情報を交換したり共有する場です。男性医師・女性医師問わず、子育て中の方はもちろん、結婚や出産後に不安を抱いている独身ドクターや、女性として先輩ドクターに質問や相談したい方なども大歓迎です。復職に関する情報や子育ての悩みなどを共有できる場所です。託児所も開設しますので、お子様連れでも是非お越しください。



復職支援事業

医療現場からしばらく離れていた医師がスムーズに復帰するための支援システムです。復職したい、あるいは復職のための相談をしたいと思った時には、ふくい女性医師支援センターへお問い合わせください。医師としての「勘」を取り戻すための研修を、個別のプログラムにより実施できるようにお手伝いをします。また福井の子育てを応援する「ふく育さん」制度を整備しています。ぜひご活用ください。

今までの研修実績

- 研修内容…胃カメラ検査、超音波検査、皮膚科検査、妊婦検診、婦人科検診、手術介助、外来診療など
- 研修病院…公立丹南病院、福井厚生病院、杉田玄白記念公立小浜病院、福井県済生会病院
- 研修期間…3ヶ月以上